救世軍公報

GOOD NEWS
ときのこえ

War Cry
1月号
福音版
2021
January
No.2811

二〇二一年　一月一日　発行

明治二十八年創刊　福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

主イエスに希望を置いて

司令官　ケネス・メイナー

新型コロナウイルス感染症の影響下に新しい年を迎えました。例年とは異なる経験をしておられる多くの方々を覚えて、お見舞い申し上げます。

昨年、わたしは様々な場面で多くの人々の心が、ものごとを嘲笑するような、冷笑的なものになったことを感じました。あえて皮肉めいた心でありたいと決意する人はほとんどいないでしょうが、批判めいた行動や、現実を素直に受け止めないような方を多く見たように思います。

冷笑的な考え方は、職場や周りの人々に悪影響を及ぼすだけでなく、結果的に、人間関係を破壊します。また、人々が経験する喪失体験を十分に悲しめなくさせる、といった影響をもたらすのではないでしょうか。

昨年、わたしたちは皆、何らかの喪失を経験しました。愛する人の死、祝いごとのキャンセル、家族や友人と離れていなくてはならない等、多くの人が心痛む失望を経験しました。

わたし自身、去年の喪失体験を振り返ったとき、悲しみの感情に心が掻き乱されて泣いてしまいました。しかし、このように喪失体験を振り返り、十分に悲しむことは、豊かな人生に欠かせないものです。

神は、わたしたち一人ひとりを、物事を深く感じることができるように創造してくださいました。心の奥深くで抱く感情は、冷笑的に封印されるべきものではなく、涙と熟考によって解放されるべきものなのです。

冷笑的になる心に有効な解毒剤は何でしょうか？それは「希望」です！十字架に架けられて死なれたにもかかわらず、復活されたイエス・キリストにあなたの希望を見いだすことです。そうするならば、確信と期待を抱きつつ、新しい年の一日一日を楽しみにすることができるでしょう。

今日の世界が抱える最大の課題は、希望を失った人があまりにも多いことだと長い間感じてきました。わたしたちには、多くの傷を受ける経験、問題、病気、トラブル、経済的苦痛、家族の問題、世界の問題、そして政治的懸念が数多くあります。けれども、たとえ現時点がどのような状況であっても、かならず希望があることを知っていていただきたいのです。今は希望を見たり、感じたりすることができなくても、希望は必ず存在します。

あなたは、どのようにしてその希望を見つけることができるでしょう？

神の言葉である聖書の言葉に触れることです。聖書の言葉は、わたしたちの日常のあらゆる状況に希望をもたらします。そして、聖書の言葉を熱心に読むだけでなく、力強く、その言葉の示すとおりに生きることです。神は、わたしたちに必要なものをすでに与えてくださっている、と大胆に確信して生きるのです。

イスラエルの王ダビデは、こう書き記しています。

「わたしは信じます
命あるものの地で主の恵みを見ることを。」（詩編27編13節）

イエスが、わたしたちの罪の身代わりとして死なれた後に復活され、今もわたしたちと共にいてくださることを知るなら、「心強くいましょう、勇気と希望をもって喜びましょう！」という言葉をお互いに聞くことができます。これらは、行動を促す言葉なのです。

「強くあれ、心を確かにせよ、主に希望を置く人は皆」（詩編31編25節　英語聖書からの直訳）

と、聖書が示すことに心を集中させることは、わたしたちにとって大切です。

新年を迎えるこの時、冷笑的な考え方に囚われている人々のもとに、復活された主イエス・キリストのすばらしい福音が届けられますように、と願っています。

神があなたを豊かに祝福してくださいますように。

（救世軍士官（伝道者））

Boophuket/Shutterstock.com

信仰の体験談　証言のページ

公立小学校　校長
大里（おおさと）　忠弘（ただひろ）さん

＜プロフィール＞
大学卒業後、中学校教師、小学校教師、社会教育主事、教頭を経て、現在公立小学校の校長。群馬県桐生市にある救世軍桐生小隊（教会にあたる）の信徒として、桐生小隊書記も務めている。

ユニセフが二〇二〇年九月に発表した報告書によると、日本の子どもの幸福度は、総合順位で先進国三十八カ国中二十位という結果でした。身体的健康度が一位であるにもかかわらず、精神的幸福度が三十七位というちぐはぐな結果が、日本の子どもたちが感じている生きづらさを数値化しているようにも受け取れます。今回は、公立小学校で校長を務めておられる大里忠弘さんにお話を伺いました。

小学校教師の父の姿に自然と教師を目指した青年時代

小学校教師をしていた父の影響もあったでしょうか、大学進学の時点で地元の教育学部を何の迷いもなく受験していました。高校受験の時もそうでした。別の高校と比べてどちらが自分に向いているだろうか、と選択に迷った記憶がありません。中学の次は高校、その次は大学と、いつの間にか当たり前に考え、地元の普通科高校に進学しました。人生の先々をあれこれ心配することなどは自分の性分にはないようで、未だに老後の貯蓄が整っていないのも、それが仇となっているのかも知れません（笑）。

わたしの両親は、救世軍桐生小隊（教会にあたる）の信徒なので、わたしも生まれた時から小隊に通い、イエス・キリストによって救われることを自然に受け入れていました。希望の大学には現役では合格せず、一年間浪人生活をしました。

子どもに寄り添える教師になりたい、と決意させた元ハンセン病患者の言葉

その浪人中のことです。当時、救世軍高崎小隊の日曜学校教師をされていた西堀先生に連れられて、同じ群馬県の草津にある、ハンセン病国立療養所「栗生楽泉園」を訪れました。

その当時、まだハンセン病の元患者さんが大勢療養所に暮らしておられました。ハンセン病の治療は済んでいても、療養所の外での暮らしに不安があり、あえて療養所で暮らしている方もおられました。わたしは、療養所で暮らす目の不自由な方たちとの交流会に参加しました。感染によって眼球を摘出した人や鼻が欠け落ちてしまった人など、顔貌が変形している人が次々に部屋に入って来られます。正直、わたしは不安になり、その場から立ち去りたいと思っていました。

集会では賛美歌を歌うのですが、目の不自由な方々なので点字の歌集を使います。中には指先が欠けた方もおり、舌の先で点字を読んでおられました。賛美の後は、自己紹介です。元患者さんはこう語られました。

昔からハンセン病は、前世や先祖の悪行の報いと言われ、天の刑罰の病「天刑病」と呼ばれることがある。だが、わたしはそうは思わない。この病のお陰で、自分の弱さ、罪深さ、そして神様の恵みの大きさを知ることができた。わたしにとっては、天の恵みの病「天恵病」である、と。

病気による苦しみに加え、世間の無理解や社会生活からの隔絶といった精神的な苦しみ、それも相当な苦しみの中、神様と交わり、その恵みに感謝をしている姿を目の当たりにしました。

一方、自分はどうだろう。健康で、自分の目で好きなものを見て、自分の足で自由にどこへでも行き、自分の指先で好きなものに触れることができる。目で見るもの、指で触れるものの中に神様の恵みを見いだしているだろうか……。

人は何もかも、いただいたもので暮らしています。貰ったもののはずなのに、一度自分の懐に入ったり、自分の持ち物になったりすると、途端に使うのが惜しくなり、人のために使おうなどとは考えなくなります。ありがたみや感謝を忘れると、なおさら人のために使うことができなくなります。

その時、神様からいただいているものを、人のために使うにはどうしたらよいだろう、と考えたのを覚えています。同じ教師になるなら、弱い子ども、周りの人の助けを必要としている子どもに寄り添える教師になろう、と考えるようになったのは、この時の体験があったからです。

大学では教育心理学と特別支援教育を学び、卒業と同時に特別支援学校の教師として教職をスタートしました。子どもたちから多くのことを教えられながら、中学校教師、小学校教師、社会教育主事、教頭を経て、現在、公立小学校の校長の立場をいただいています。

子どもたちに対する姿勢は、イエス様から教えていただきました

わたしが子どもたちと向き合う時に大切にしている聖書の言葉があります。それは、イエス様が子どもたちに対する姿勢を大人たちに説き、態度で示されている場所です。

イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人たちを叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。（マルコによる福音書10章13～16節）

イエス様はいつでも、すべての人を招いておられます。イエス様の語られていること（説教）を理解することもできず、自ら献金することもない幼い子をイエス様は抱き上げて、祝福してくださっています。

今の世でも、イエス様が招いておられるのは、キリスト（教会）の教えを理解し、信仰告白をした人たちだけではありません。イエス様はいつでも、罪の中にあって、迷い、悲しみ、苦しんでいる人たちを招いて、あなたの居場所はわたしのところ（教会）にありますよ、と言ってくださっていると示されています。

学校が教会でないのは当然です。ましてわたしの勤めるのは公立小学校です。学校でキリスト教の教えを説くことはできません。しかし、〈学校は、どんな子にとっても、どんな状況にある子にとっても、安心して過ごせる場でなければならない〉と考えています。

勉強が好きで張り切る子も、勉強が苦手で教室では活躍できない子も、運動が得意でヒーローになれる子もなれない子も、うっかり宿題をし忘れた子も、家族とうまくいかなくて心の晴れない子も、友達がたくさんいる子も、友達とうまく関われない子も、どの子にとっても安心して過ごせる居場所が、学校の教室でなければなりません。

写真上より
・「栗生楽泉園」を訪ねた時に（前列右）
・毎夏、救世軍主催のキャンプで工作を指導

子どもの言葉にならない声に耳を傾け、その声に共感するならば……

もちろん、子どもにとっての安全基地は家庭であり、親であることは言うまでもありません。けれども、学校にあっては、やはり、自分の学級、教室がその安全基地であってほしいのです。安心できる教室だからこそ、さまざまなストレスに耐え、新しい体験への挑戦ができるからです。

ある日のことです。一年生の教室に近いトイレから、子どもの騒ぐ声が聞こえてきました。それは、授業時間でした。教頭が様子を見に行くと、二人の一年生がトイレの入り口で揉めていました。一人の子が大きな声をあげながら、教頭の方へ向かって走って来ました。教頭は、その子を捕まえてまずは落ち着かせよう、とすぐ近くにあった教員の更衣室へ入れました。その子は、更衣室の中で自分の上履きを手に持ち、ロッカーをバタバタと叩き始めました。そんなところへわたしが通りかかったのです。

更衣室の中で、顔を真っ赤にし、全身を強ばらせている一年生。わたしは彼の後ろから抱きかかえてみました。そして、

「くやしいね。頭にきちゃうよね。何があったの？」と声をかけました。彼は、歯を食いしばってうなり声を上げていました。背中をさすりながら、

「そうだよね、頭にきちゃうよね。何があったの？」

と再び尋ねました。

「特別なトイレに行こうとしただけなのに、じゃまされた。」

かすかな声で答えてくれました。どうやら、次のような話のようです。

授業中便意をもよおしトイレに出向いたが、使おうとした洋式トイレには先客がいた。無理矢理使おうとして相手と揉めた。別の棟にも洋式トイレがあることを思い出し、そちらへ向かった。そこで、揉めていた様子を見とがめた教頭に捕まった。

理路整然と彼が説明したわけではありません。彼から聞き出した言葉は「特別なトイレに行こうとしただけなのに、じゃまされた」だけです。わたしと教頭とで一生懸命推測した結果のストーリーです。

わたしたちが捻り出したストーリーを彼に確認すると、彼は何となく納得したような表情をして、行こうとしていたトイレに向かって歩き出しました。その時間、彼の教室では国語のテストがおこなわれていましたが、しばらくすると、すっきりとした顔で戻って来た彼は何事もなかったように席につき、テストに取り組みました。

トイレで友達と揉めていたことはいつの間にか不問に付されました。あえて問いただしても良い結果は生まれません。この子を怒りに震えるような事態に追い込んだことは、大人側のミスだと言えます。わたしたち大人は、言葉で自分の意思を伝えることで相手にわかってもらえることを、実体験を通して、粘り強く教えていく必要があるのです。

校内の教室を見て回ると、集団活動には馴染まない子どもの姿が多く見受けられます。それでも、わたしは先生たちに言います。

「学級は、どの子にとっても安心して過ごせる居場所でなければならない」

と。担任の先生が子どもの言葉にならない声に耳を傾け、その声に共感してくれれば、どんな子にとっても安心して過ごせる教室ができるのだ、と。

創立者　ウイリアム・ブース　大将　ブライアン・ペドル（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　ケネス・メイナー（救世軍本営　東京都千代田区）

WINDOWS on the ARMY WORLD　世界をみつめて

〈全世界〉新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下での支援

●リベリア

青少年に良質な教育の機会を提供しているリベリアの救世軍。2020年11月には、救世軍の学校の卒業生であるグワー・トーマス氏（写真下）の経営するWeeglo社が、コロナ禍でのオンライン在宅学習（eラーニング）プラットフォームの革新に貢献したとして、第10回Orange（オレンジ）アフリカおよび中東ソーシャルベンチャー国際グランプリで3位を受賞しました。Weeglo社は、リベリアの救世軍の学校全てにおいて、システムの試験運用に成功しており、感染予防による封鎖中は、何千人もの生徒に学習の機会を提供し続けました。

このシステムにより、学校は、教室での活動、評価、登録、オンラインテスト、ライブビデオ会議と授業など、混合型学習管理と配信システムのすべてを制御できます。救世軍は、このプロジェクトを無料で試験運用し、封鎖中も教育環境を維持できました。（『ときのこえ』2808号に関連記事掲載）

●インド

マハラシュトラ州アフマドナガルにあるエバンゼリン・ブース記念病院は、国内で救世軍が運営する5つの大きな病院の1つです。2020年3月14日にCOVID-19の最初の症例を確認して以来、COVID-19の症状を訴える3,200人以上の患者に対応してきました（2020年11月9日現在）。9月には、入院患者数がピークに達し、そのうちの163人がCOVID-19陽性者でした。

受診希望者は、インド国防省の研究開発機構によって設置された、消毒スプレーのあるテントを介して受診します。警察官が患者の流れを管理し、スタッフをサポートしています。患者の多くが貧困状態のため、病院では、受診者にミネラルウォーター、歯ブラシと歯磨き粉、石鹸、消毒剤、マスク、栄養ドリンク等のセットを提供し、入院患者には1日3回温かいお茶とスープ、ゆで卵、クッキーなどの栄養価の高い食品を提供しています。

精神的なケアにも力を入れ、病院スタッフにも免疫力を高めるサプリメントが無料で提供されています。スタッフから一人の感染者も出ていないこと、患者の高い回復率（COVID-19による死者は1人のみ）が、多宗教からなる地域の人々から、「神の天使」と病院が呼ばれる高い評価につながっています。

救世軍とは？ What is The Salvation Army?

心は神に　手は人に　Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースによって始められ、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取（さくしゅ）される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895（明治28）年に始まり、伝道の拠点である小隊（教会にあたる）を開設。廃娼（はいしょう）運動、失業者対策、病院の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興（おこ）してきました。現在の新型コロナウイルス感染症の影響下においても、小隊、社会福祉施設、病院は、感染予防策に最大限努力し、活動をおこなっています。

日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは、山室軍平。山室の生涯を描いた映画『地の塩　山室軍平』（2017年公開　現代ぷろだくしょん）は、日本での公開後、いくつかの海外の映画祭において映画賞を受賞しました。100年以上前に山室が取り組んだ、庶民にわかりやすい伝道と、命がけの廃娼運動の姿が、宗教離れと人身取引がかつてない規模で起こっている現代において再評価されています。

【お詫びと訂正】

※第四回救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞者のお名前を左記の号で誤って掲載しておりました。お詫びして訂正いたします。（敬称略）

『ときのこえ』第二八〇五号、第二八〇六号、第二八一〇号

（誤）田中真希
（正）田中真季

大変申し訳ございませんでした。

編集部

救世軍公報　ときのこえ
発行日　福音版／毎月1日、広報版／奇数月15日（除く7月）
定　価　福音版／1部40円、広報版／1部100円
　　クリスマス特集号（12月1日号）／1部100円
発行兼　救　世　軍
印刷人　代表者　ケネス・メイナー
編集人　寺澤　眞由子
発行所　救世軍本営　https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話　03-3237-0881（代表）
Mail　jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所　ピーアンドエス
@SArmyJP　SArmy_JP　救世軍 The Salvation Army

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会／救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

☐ 私の近くの救世軍を紹介してください。　☐ キリスト教についてもっと知りたいです。
☐『ときのこえ』の購読を申し込みます。　☐ 相談を希望します。